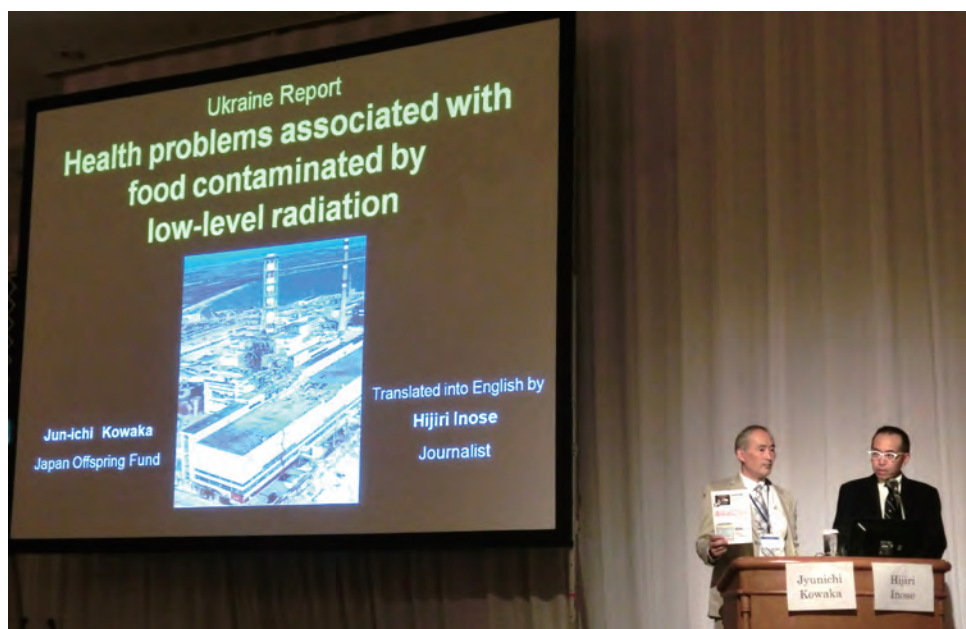


《チェルノブイリ原発事故》第4回ウクライナ調査報告〈下〉

第8回

アジア太平洋臨床栄養学会で講演



ウクライナの成果を6月12日に国際学会で講演。
第8回「アジア太平洋臨床栄養学会」は
日本臨床栄養学会、日本栄養改善学会、
日本病態栄養学会、日本抗加齢医学会、
日本栄養・食糧学会などとの共催で、
後援が農林水産省、厚生労働省。
痛がっているウクライナの子や親を救って
微量の放射能汚染で被害が出ると証明したので、
基準を厳しくして、被害を防ごうと話しました。

食品と暮らしの安全基金

(旧称：日本子孫基金)

食品規制を1ベクレル/kgに



* 英語のできない私に代わって、ジャーナリストの猪瀬聖氏が原稿を英訳し、英語で講演。質問には、座長の通訳で私が回答しました。(小若)

学会での講演時間は30分だったので、
痛みに着目した理由から、
痛み、皮膚病、神経障害を治し、
その子の食事を調べて、
放射線の最低作用量を大更新、
と、一通り全容を話し、
質疑も10分行いました。



She had suffered from dry scaly skin and other skin diseases; they cured.

From October 2012, we also provided her with ultrapure Vaseline from October 2012, and "dashi" or natural soup stock we brought from Japan. The dashi, which is usually in powder form, is made from dried sardine, frying fish and dried kelp. We tried dashi based on our theory that if she takes potassium and calcium-rich dashi, it will help intake both Cs137 and Sr90 and carry them out of body because these radioactive substances are congeners of potassium and calcium. We told her to mix dashi with some food and eat it every day.

He had not been able to walk straight; he became able to walk straight four months later

We provided her with massage to help her muscles relax as well as dashi.

In Area ⑧ on the map, we found there are many children and adults who suffer from headache despite the fact that the village is in the non-contamination zone.

We asked 25 residents, including children at the age between 15 and 17, and their parents, about their health.

Foot pain	1 person
Headache	18
Autonomic dysregulation	5
Nose bleeding	13
Catch a cold and miss school	8
No problem	0

We checked the level of Cs137 in daily diet of children who live in a non-contamination zone but have health problems.

1.1Bq/kg

Daily diet in a village⑧ where lots of residents suffer from headache, surveyed by the Ukrainian health authority on March 24, 2013

No.	サンプル名	数量 (g)	測定結果 (Bq/kg)	1食当たり (Bq)
1	Meat soup	450	1.1	0.495
2	Red borsch	400	0.7	0.28
3	Steamed potato	550	1.2	0.66
4	Tomato pickles	350	1.5	0.525
5	Blackcurrant jam	400	1.0	0.4
合計	Total	2150		1日2.36

*サンプリング日: 2013年3月24日 *ウクライナ保健省ポリスオリ特設所

学校給食を安全にしよう

多数の子どもに痛みが出ているのに、放射能とは無関係とされていたウクライナ。ここで、極低レベル放射能汚染による被害を証明したことは、世紀の大発見です。この成果を用いて、これからは日本の子どもを守る活動をしていきましょう。

危険を過小評価する4つの仕組み

放射能の危険性や、原発事故の被害について政府が言ってきたことは間違いでした。

原発は、原爆の技術を用いて造られたので、放射能の基準は、人が死ぬかどうかの基本になっています。だから、普通の病気や体調不良、痛みが見逃されたのが第1。

被害を過小評価した第2の仕組みは、被曝量の測定に厳密さを要求したこと。それで、莫大な研究費を注ぎ込んだ研究以外は、「科学でない」と切り捨てられました。

チェルノブイリ原発事故で大きな被害が出たのはスラブ語圏です。英語の論文が出てこないことを理由に、国連科学委員会は被害を無視してきました。これが第3。

第4は、ホールボディカウンターの精度が悪いこと。微量だと「不検出」になり、放射能は原因でないとされたのです。私たちも現地を検査しましたが、「不検出」でした。

極微量放射能による傷害を、私たちが立証できたのは、手法を変えて、食事中の放射能を減らして、頭痛、足痛などが消えることを確かめたからです。

この手法は、お金と時間がかかります。それを行うことができたのは、みな様から多額のカンパを何度もいただいたお蔭です。

治った被害者はもちろん、この「世紀の大発見」を行うことができた私たちも、みな様に深く感謝しています。

縮小せざるを得ない福島の農業

食事に含まれる極微量の放射能で人が健康被害を受けることが立証されて、大きな影響を受けるのは、福島の農業です。

第3回の調査で、1kg当たり10ベクレルで人に被害が出ることを明らかにした時点から、福島県の広い地域で農業をすべきではないことは明らかになっていました。

今回の調査で、その地域はさらに広がることになりました。人に健康被害を起こす農作物を生産し、販売したら、それは犯罪です。

国は、1ベクレルを超える農作物が生産された農地での作付けを禁止すべきです。

農家が福島県から出て、他県で農業を行えるように、国は指導と援助を行う必要があります。地域集団ごとの移住にも、手厚い補償と公的支援をすべきです。

国が「(放射能を)食べて応援しよう」と犯罪を行っている間は、消費者は、国産の農作物を避けるしかありません。

ポストハーベスト農薬が残留しているので、できるだけ輸入食品を避けようと訴えてきた私ですが、農薬より放射能の方が怖いので、3.11後は、素性のわからない国産より、農薬が残留していそうでも輸入品の方を選ぶようにしています。

こういう人間が増えるので、国は急いで福島農業に対策をとるべきです。そうしないと日本農業が壊滅の危機にさらされます。

ソ連以下の情報公開

ウクライナに行って、チェルノブイリ連盟のアンドレーエフ代表に会ったとき、日本の情報公開は、旧ソ連より劣るではないか、と指摘されました。

彼には計4回会いましたが、そのたびに具体例を出して、日本はソ連以下と言われ、ソ連はひどい国と思っていた私は、いつも、プライドがずたずたになります。

情報を出さないのは、政府だけではありません。マスコミも、社会の混乱を嫌がって、本当に危ない情報は報じなくなりました。

今の日本は、政治と行政だけでなくマスコミも、被害者を増やす側になっています。

一番頑張っているのは東京新聞ですが、極微量の放射能による人体被害については報じていません。今回はどうでしょうか。

1ベクレル/kg規制の意味

化学物質は「最低無作用量」に安全率の100分の1を掛けて規制値を決めるのに、放射線は安全率の議論が行われていない、と私は主張してきました。

1kg当たり1.1ベクレルの食事で頭痛が出たのですから、この主張を適用すれば規制値は0.01ベクレルになります。

でも、ここまで測定すると検査が追いつきません。1ベクレルなら1時間ですむのに、0.1ベクレルですら丸一日かかるからです。

現実に対応できる規制ということで、学会講演でも、1ベクレルを提案しました。

1ベクレル未満での被害を、ウクライナで見つけようと思えば、見つけられそうです。

でも、それより1ベクレル規制を達成するのが先ですから、これからは新規制を実現させることに努力しようと思います。

What are we going to do?

The upper limit of radiation in food should be set at 1Bq/kg, below the lowest observed effect level.

Children who take 1.1Bq per day from food are to take in 0.011mSv a year.

Currently 100mSv is considered as the minimum radiation amount because death toll by cancer in Hiroshima and Nagasaki began to increase at the level. But according to our surveys, people develop pains at one-nine thousands of the amount.

Science to date made a great error, sacrificing the victims of radioactive contamination.

The science researching impact of low radioactive contamination food on people's health should be reviewed and rebuilt from scratch by carefully examining children's health in low radioactive contamination areas and radiation levels in food they eat every day.

学校給食の放射能検査を厳しく

福島県の農産物の放射能検査は、検出限界が25ベクレル/kg。不十分な検査しかしていないのに、学校給食に福島県の農作物を出している地域があります。

さいたま市では、福島産の牛乳も入れていますが、検出限界は10ベクレルです。

食材によっては1.5ベクレルや、5ベクレルもありますが、今からは、これらの検査でも不十分なレベルになります。

他の自治体も実情は似ているので、検出限界を下げて、子どもを守る必要があります。

みな様も、自分の地域の学校給食の放射能検査を、検出限界が1ベクレル以下にするように働きかけてください。

もし、給食の担当者が「事実無根だ」などと反論したら、今月号を示して「国際学会で30分の講演を行いました」と、一刀両断にしてください。

ウクライナで出ている被害の実情と、それを治す方法を突き止めたので、これからは、日本の子どもを守るために、本誌の活用をお願いします。(小若順一)

7.13「国際学会再現」の日本語講演

国際学会での講演は英語で猪瀬氏が行いました。7月13日に、日本語の原本を基に、私が再現講演を行います。詳しくはp27の案内をご覧ください。(小若)

<http://tabemono.info/kouen4.html>

良くなり始めた17人

「体調異常は10年後から」と昨年7月号に掲載した3姉妹。
年上の「おばあちゃん」のはずが「46、49、53歳」で仰天！
3姉妹の家族を援助していたら、健康が改善し始めました。



写真左：クリシュ

腰の悪い祖母のクリシュを指圧をしようとしたら、全身が信じられないほどカチカチ。これで生きていられるのか、と感じました。

事故直前に生まれた26歳の息子アレクセイは、指関節が膨れてスプーンを持てず、右足にはギブス。インタビュー後は母親に抱きついて泣き出すほど症状の悪化が続いていました。

事故から4ヵ月後に生まれたエレーナは、卵巣と腎臓に病気があり、足が痛くて走れないのに、母親がバケツを持って水を汲みに行くと、その重いバケツを持ちに行きました。

こんな家族が住んでいるのは、チェルノブイリから135km西にあるビグニ村で、乳牛が道の草を食べ、その脇を馬車が走っていました。

この地域では、キノコが1kg当たり最大70,000ベクレル、ベリー類も5,000ベクレルを記録しています。

家族全員が病気だらけで、体調不良。仕事の少ない村で収入が多いはずはありません。

エレーナは、森にあるベリーとキノコがいかにも美味しいかを説明してくれたので、家庭の食糧自給はほぼ100%でしょう。

日本で考えると、健康でいられるはずのない汚染村で、今年2月から、3姉妹の家族に肉を無償で届ける代わりに、キノコとベリー類を食べないプロジェクトを進めていました。

すると、礼状とともに、全員の体調が少し良くなったと、うれしい報告が届きました。

クリシュは体が楽になり、アレクセイは冬に足を脱臼したのに、良くなって足が強くなり、スプーンを持てなかった手が動き始めて、スプーンを持てるようになり、エレーナは足とお腹と目の痛みが軽くなったというのです。(小若)

肌がきれいになって元気そう



写真左・エレーナ



写真中央後・アレクセイ

日本のみな様へ

ヴォロベイ、クリシュ、ヴォロベイの3家族より

私たちは、病気と激痛に始終苦しめられ、悩みながら暮らしていました。

5ヵ月前から、放射能汚染のない肉を提供していただき、キノコとベリー類を食べないようにしていたら、体調が良くなり始めました。

すると、近所に住んでいる人たちが、私たちの健康が良くなっているのに気づいたのです。

こうして助けていただいている日本の方々に、私たちは心から感謝しております。

私たちは祖先の代から、このビグニ村に住んでいます。それが27年前、放射能で汚染されたから、私たちの健康は悪くなっていきました。

今は、子どもも全員、病気を抱えています。

援助していただける話はいろいろありましたが、実際に支援していただけたのは、あなた方のプロジェクトが初めてです。

日本のみな様のお陰で、子どもたちは明るくなりました。子どもたちが、楽しく活発にしているのを見ることは、何よりうれしいことです。

本当に有難うございます。

みな様が、ご健康に、そして幸せに暮らされるように祈っています。

ぜひいつか、ビグニ村にいらしてください。

※ 第2回調査報告のp10~13に、3姉妹の家族の報告を掲載。ホームページで公開しています。

<http://tabemono.info/report/chernobyl.html>

2016年、食品の放射能が増加

日本の食品は放射能が減ってきました。
でも、これからも減り続けるわけではなく、
2016年ごろ、数倍に増える食品があるのです。



1960年代から、ストロンチウム90を精密に測定していたポルタヴァ市は、チェルノブイリ原発事故後は、セシウム137も測定するようになりました。

事故が起きた1986年は桁違いに多く、そこから急激に減るのは、どの食品も同じです。

ジャガイモの推移図(先月号)では、セシウム137は91年まで減りましたが、翌92年には6倍ほどに増加。93年は半減、94年に再ピークがあり、そこからは順調に減っています。

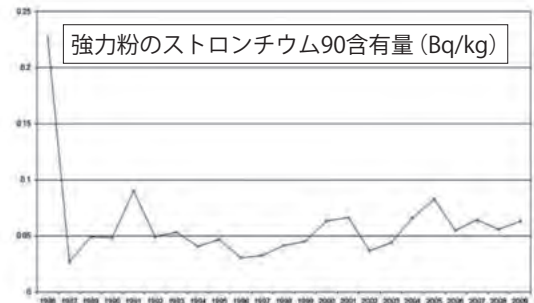
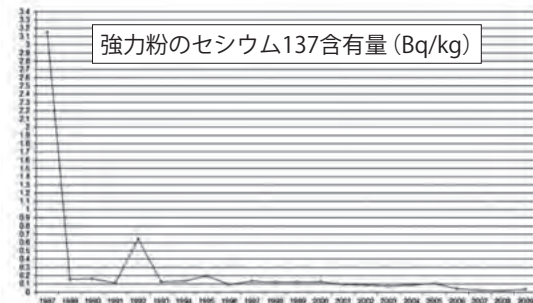
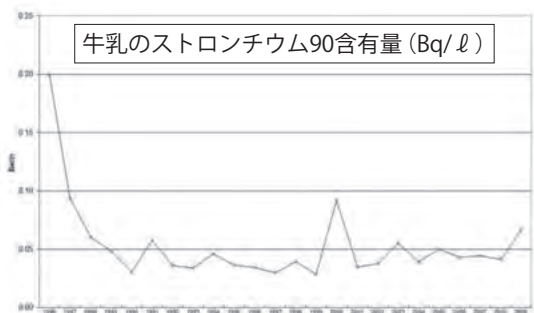
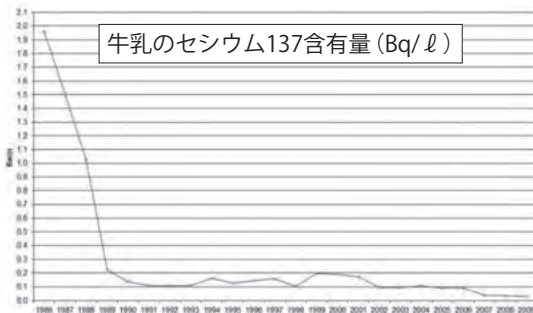
パン用強力粉のセシウム137は、89年までは激減し、それから横ばいだったのが、92年には6倍ほど増え、それからは順調に減っています。

牛乳のセシウム137は、89年まで激減し、それから94年、99年に小さなピークがありますが、これは前年の2倍以下です。

ストロンチウム90の動向は、事故直後はセシウムと同様に激減し、3食品とも91年にピークがあります。

それから下がって、15年ほど前から増加傾向にあることは前号でお知らせたとおりです。

だいたい5年後に、食品中の放射能は増加します。もう問題はなくなったと思っていると、健康を害することもあるので、これからも継続して監視する必要があります。(小若)



ウクライナの子どもを救う映画

ユーリー・アンドレーエフ代表と対談

今回の最後の仕事は、ウクライナ・チェルノブイリ連盟に、放射能で健康被害を受けている子を取材してもらい、さらに子どもを救うための作品制作を引き受けてもらうことです。首都キエフは130年ぶりの大雪で、予定の25日は休日に。3月26日にアンドレーエフ代表と意見交換を行いました。



IAEAは「犯罪者」の組織

小若 第3回調査ツアーでは、素晴らしい講演をありがとうございました。

IAEAを解体せよというアンドレーエフさんの主張を載せた報告書を作りました。

アンドレーエフ 日本の皆さんからの質問で、本当に聞きたい、事実を聞きたかったということが感じられ、うれしかったです。

「緊迫の廊下」の写真が出ていますね。

2号炉の運転室では私の同僚がまだ働いているはず。あ、スポーリッシュ君に会って話を聞いたのですか。

小若 この報告書はホームページで公開して、多くの人に読まれています。

アンドレーエフ IAEAは、核の不拡散と、原発を安全に運転させるため、国連に設置されました。しかし、実際は世界中の人たちのお金を使い、原子力関係者の利益を守るように動いています。だから、IAEAは「犯罪者」というべき組織なのです。

世界は、かつてのチェルノブイリ、今のフクシマから、事故を起こした経験をよく学ぶべきです。このような大事故を、今後は絶対に起こさないようにしなければなりません。

小若 日本は、事故を防止する新基準を7月ま

でに作ろうとしています。新基準を作る前から原発を動かしています。だから、経験から学ぶより、原発の利権を守ることを優先しているのです。アンドレーエフ 知っています。先週、福島第一原発で再び事故がありましたね。

原因はネズミだったとか。ネズミは言葉がわかりませんからね。

毒物の貯蔵場所に

小若 福島では、相変わらず意味のない除染をやり続けています。

アンドレーエフ 日本は旧ソ連より反省しない国ですね。人が多いところ、学校、幼稚園はともかく、除染は、広いところは意味がありません。チェルノブイリでは、除染作業に数千万ドル費やされましたが、それは意味がなかったのです。

原発近くで行った除染例では、汚染土を土の下に入れ、下のきれいな土を上にしたのですが、草の層を壊したので砂地になって、風が吹いたら、下に入れた放射能の土まで飛んで汚染が広がってしまいました。

除染せずに放置していたところは、放射能は上に溜まり、移動しませんでした。

放射線の濃度が低くなったのは半減期による自然現象で、人の手を加えたところは逆に

汚染状況が悪くなっています。

小若 300年たつと、放射能が1000分の1になるので、住めるようになりますね。

アンドレーエフ 300年もかからない場所もありますが、数千年くらい住めない場所もあります。

ただし、これは、そこに住んで子どもを産んではいけない期間です。放射能の危険性があっても、規則を守りながら気を付ければ、働くことはできます。

人が住めない場所に倉庫を造って、毒物の廃棄物を入れておくとか、危ない工場を作ったりすればいい。

原発の近くの土地をどう利用するかは、私たちも考えていることです。

健康被害が出るレベルは

小若 今回は、お願いにきました。

ウクライナに来て驚いたのは、足が痛い、頭が痛い子がたくさんいるということでした。

汚染地帯で子どもに障害が出るのならわかるのですが、非汚染地帯なのに、頭や足が痛い子がたくさんいたのです。

今回は、非汚染地域の3州に行って、痛みに絞って調査しました。3州ともフッ素の汚染地帯で、骨に障害が出ると危惧されていましたが、子どもたちに会ってみると健康で、前回までの調査で会った子とは、元気さがまるで違いました。

ところが、ポルタヴァ州境に近い学校では、頭が痛い、ほとんどの子が言いました。

第3回の調査では10ベクレル/食で痛みが出ていたと報告したのですが、今回の学校はそれよりずっと低い値になりそうです。

アンドレーエフ 今、チェルノブイリ連盟と政府は力を合わせ、子どもを助けるプログラムをつくらうとしています。

私たちはリクビダートル(事故処理作業)や、1 Svの被曝をした人から生まれた子ども



たちをまず助けようと思っています。

ところが、議員たちから反発があって、それほど被曝していない親から生まれた子どもたちも入れようとしているのです。

被曝者の子にはサメ肌が多い

小若 「痛い」と手を挙げた子どもに、放射能で汚染されていない食品を食べてもらったら、すべての子どもの症状が、非常に軽くなり、完全に治った子もいるので、私は今回の取材で、福島の子どもを救うデータと、手法を手に入れました。**アンドレーエフ** その子たちは、まず、医師に診せた方がいいですね。

小若 医師が治せなかったサメ肌の少女・ヤーナが、放射能の少ない食事したら、肌がピカピカになって治りました。

また、医者が治せなくて肢体不自由児のようになっていったミーシャは、まっすぐに歩けるようになり、3年間上らなかった左手が真上に挙がりました。

アンドレーエフ 被曝者から生まれた子どもたちに、サメ肌の子が多いです。

子どもの麻痺は出ていません。

ただ、頭の痛い子は、本当に放射能が原因でしょうか。私の妻は、子どもの頃、テストの前には頭が痛くなったそうです。

私には、事故当時9歳だった長女から生まれた孫がいます。あの当時、長女を含むブリピャチ市民は、莫大な放射線を浴びました。

娘が被曝していたので、孫にも生まれつき

いろいろな病気があるけど、活発に走らせてたり、スポーツをさせているので、絶対に、頭や足が痛いという話は出ません。努力しないとだめだと思います。

【ここで、食事プロジェクトを実施したタチアナ女史が反論して激論となり、両者とも引かなかった】

事実を見て記録してほしい

アンドレーエフ チェルノブイリの西に3つの州があり、そこに200近い村があります。その汚染はたいしたことはありませんが、キノコとかベリーとかを食べる時期になると食品の基準を超えることがあります。

きれいな食品を食べさせるのは、その3州の村に住んでいる人には必要ですが、ほかの地域の人は必要ありません。

小若 しかし、非汚染地域なのに、事故から26年たって、事故後に生まれた12~13歳の子どもで、足が痛いとか、頭が痛いと言う子がたくさんいるのは、事実です。心臓が痛いと言う子もいます。この子たちを放っておいたら、心筋梗塞で30代で死ぬのではないかと私は心配しています。私は、この惨状を見てられません。

日本に帰ったら、私は、日本の一般食品基準を100ベクレル/kgから1ベクレル/kgに下げよう提案します。

しかし、この国では私は何もできません。

私と意見が違うので、私を信用しなくてもいいが、この国で起きていることだから、事故による被害者の中心的存在であるチェルノブイリ連盟に、非汚染地域で生まれた子や孫を調査していただきたい。

事実を確かめていただきたいので、撮影機材2式と、3000ドルを提供するので、マカレンコ氏に調査と撮影をお願いしたい。

アンドレーエフ わかった。マカレンコに任せる。

マカレンコ チェルノブイリ事故に関することなら、連盟は応援します。

ただし、大げさなことにしないでほしい。

小若 事実を記録して、事実をウクライナの人に見せる小作品にしてほしいだけです。



ヴァシーリー・マカレンコ副代表

【この数週間後、マカレンコ氏の仲介で、私たちが昨年訪ねた2学校の地域の議長にタチアナ女史が会い、化学肥料を16トン購入する様子が撮影された】
(小若)

《25日》 ナタリアと再会

「心臓とあちこち痛いのが治った」と、第3回調査で報告したナタリア・オスタポヴィチさん(ビグニ村出身、1986年生まれ)に再会。「転地療養後はキエフに住んでいます。時々心臓が痛くなることがあるけどもう薬は飲んでいない。夏に結婚します」と、うれしそうに報告。



カンパで助けてもらったことを深く感謝していました。

《26日午前中》 ザポルーカ訪問

「家族の家」が広い家に。契約切れで、引っ越し先に苦慮しているとは聞いていましたが、前よりゆったりした家を借りられました。子



どもたちは病院に行っていて会えませんでした。腰痛の小若団長に代わって丸田副団長が1000ドルのカンパを贈呈してきました。

研究者が被害を隠していた

2011年3月に0～18歳だった福島県の子に実施されている検査で、12人が甲状腺ガンと診断され、別に、甲状腺ガンの疑いのある子が16人いたと、6月6日に報道されました。

検査の責任者である福島県立医科大学の鈴木眞一教授は「最新の超音波機器を用いて専門医が実施したうえでの発見率。想定範囲ではないか」と述べています。

国連科学委員会も同時期に「放射線被曝による甲状腺ガンの発生は考えにくい」と表明しています。

小児甲状腺ガンが見つかるのは100万人に1～2人。

今回は、85～170人に相当する子がガンにかかっているのです、異常に多いのです。

福島で、2年で多数の子に甲状腺ガンが見つかったのは、理由があるはず。ところが原子カムラの専門家は、異常な実態の原因をしらみつぶしに調べて行こうとはせず、多いとは言えないと発言するだけです。

チェルノブイリ原発事故では、4～5年後から小児甲状腺ガンが多く発生したので、福島で、甲状腺ガンが多いのか、そうでないのかは、2年たてば明らかになります。

問題は、専門家が本気で原因追及を行おうとしないこと。

なぜ、そうなったのでしょうか。

放射能が発見されたのは1896年。それから研究が進められたので、今頃になって発見できることが残っているはずはないと思っていた私が、特ダネどころではなく、放射能汚染の被害の研究史に残る大発見を行ってしまったのです。

そんな発見ができたのは、原子カムラに属

する研究者たちが、事実を追及せず、原発を推進しやすいよう、被害者が出ているのに、目をつぶっていたからです。

言葉も地理もわからない私のような外国人が、チェルノブイリ原発の爆発で汚染されウクライナに4回出かけただけで、何か発見できることが残っているなどは、常識では考えられません。

しかし、日本と同じように専門家が被害を隠してきたと考えればどうでしょうか。

「因果関係の解明が不十分」として、放射能が原因の病気を少なく報告する研究者には研究費を出し、病気が多いと報告する研究者には、「科学的厳密さが足りない」として、研究費を出さないようにすれば、被害を少なく見せるのは簡単です。

ウクライナの学校では多くの子どもが体調異常で苦しんでいるのに、放射線の研究所のトップは、「ゲームが普及し、運動しなくなったから」と、平然と言いました。

こうして研究者たちも、事実を隠してきたのです。

微量の放射能汚染で子どもに被害が出るのがわかったのですから、これからは日本の子どもを守る活動も行います。

でも、ウクライナの被害者を助けていると、将来の日本で役立ちそうな情報がまだたくさん得られそうです。

5ページに礼状を紹介した3家族の17人は、全員が病気だらけで生きています。その病気がどう改善していくかは、将来の日本に、大いに役立つかもしれません。

食品と暮らしの安全基金代表 小若順一

チェルノブイリと福島「放射能から子どもを救う基金」 カンパのお願い



チェルノブイリ原発事故で被害を受けたウクライナでは、
ガンで苦しむ子、足が痛い、頭痛、喉痛と痛みを訴える子
心臓が痛いという子、サメ肌の子、自律神経の病気の子もいます。

私たちは、ガンの子どもを助ける団体ザポルーカへ援助を行い、
痛みや自律神経の病気を抱える子たちには
放射能が少ない食事にしてもらい、健康を改善させることによって、
食品中の微量放射能が影響していることを突き止めました。
現在は、汚染のひどい村の3家族17人に、
放射能の少ない食品を提供し、健康を回復させつつあります。

ウクライナで多数の子どもと大人を健康にすれば、
福島での被害を防ぐことができますが、資金が足りません。
そこで、みな様にさらなるカンパをお願いする次第です。



<カンパ振込先>

ゆうちょ銀行振替口座
口座記号番号 00160-3-512738
口座名 食品と暮らしの安全基金

※他行等からの振込をご利用される場合は、下記振込先をご指定ください。

店番 019
当座 0512738
口座名 トクヒ)シヨクヒントクラシノアンゼンキキン

※クレジットでも受け付けております。
クレジットの場合は、当団体ホームページからお願いいたします。
<http://tabemono.info/>

NPO 法人 **食品と暮らしの安全基金**
(旧称：日本子孫基金)

〒338-0003 埼玉県さいたま市中央区本町東 2-14-18
TEL 048-851-1212 FAX 048-851-1214
ホームページ <http://tabemono.info/>